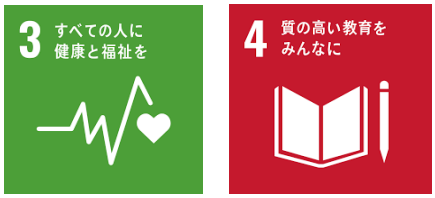
近圧協の取組みについて

①　全圧連「統一安全・技術講習会」全員参加、各種安全衛生教育の実施

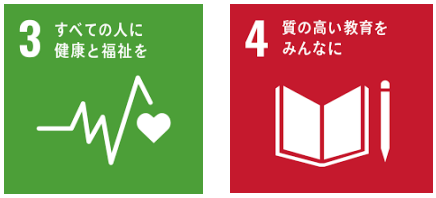
近圧協では、現場で働く労働者の安全意識と技術力の向上を目的として、全圧連の「統一安全・技術講習会」およびCP車特別教育の再教育（危険再認識教育）を毎年実施し、全従業員が受講しています。

また、「足場の組立て等特別教育」「フルハーネス型墜落制止用器具特別教育」「職長・安全衛生責任者教育」などの受講を推進し、法令に基づく安全管理体制の強化に取り組んでいます。



②　安全教育推進・資格取得の励行・安全大会の開催

安全衛生責任者会議を年 3 回開催し、組合員との情報共有を図るとともに、コンクリート圧送施工技能士や登録コンクリート圧送基幹技能者の育成を推進しています。特に登録基幹技能者は、圧送計画や施工検討会を主導する中核人材として全国最多の在籍者数を有しています。また、無事故表彰による安全意識の向上に取り組むほか、化学物質管理者および保護具着用管理責任者の選任義務化に対応し、全組合員を対象とした講習会を実施するなど、安全管理体制の強化に努めています。



③　全ブーム車の超音波探傷検査全車点検、ポンプ車の特定自主検査徹底

（事業所検査・協組費用負担）

近圧協では、CP車のブーム折損事故対策として、法令による義務化に先駆け、2005 年から全ブーム車を対象に超音波探傷（UT）検査を実施しています。毎月開催する安全技術委員会では、登録車両の特定自主検査およびUT検査の実施状況を確認し、安全管理の徹底を図っています。

また、高所圧送用のスーパーロングブーム車や超高圧配管車など、多様な施工ニーズに対応できる車両を整備するとともに、資格取得支援や安全教育、安全パトロールを通じて、事故防止と技術力向上に取り組んでいます。



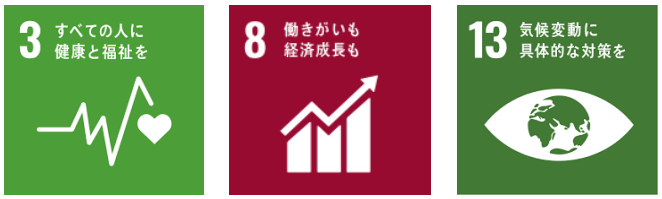
④ 全組合員 月次安全衛生会議の定例化

近圧協は、全組合員に月1回以上の労働安全衛生会議の実施を義務付け、その実施状況と内容を安全技術委員会で点検・報告しています。また、現場のヒヤリ・ハット事例を全組合員で共有し、労働災害の未然防止と安全意識の向上に努めています。



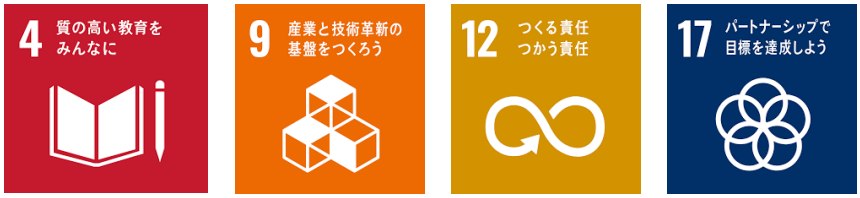
⑤ 安全確保のための装備導入など

近圧協では、統一書式の始業前点検表を全組合員に配布するとともに、ヘルメットや安全帯の貸与を行っています。特に、経口補水液OS1や防暑タレ等に加えて、空調服の支給など、安全と熱中症対策には力をいれています。また、普通救命講習の受講・更新を推進し、労働災害の防止に努めています。



⑥ 圧送勉強会（行政主催）

近圧協では、2002 年に行政機関と連携した「コンクリート圧送勉強会」（大阪府事業調整室主催）に参加して以来、近畿一円各関係行政機関からのご依頼を受け、毎年圧送勉強会を開催しています。圧送工事の安全施工と技術向上に向けた啓発活動を継続的に行っています。



⑦ 教育動画の作成

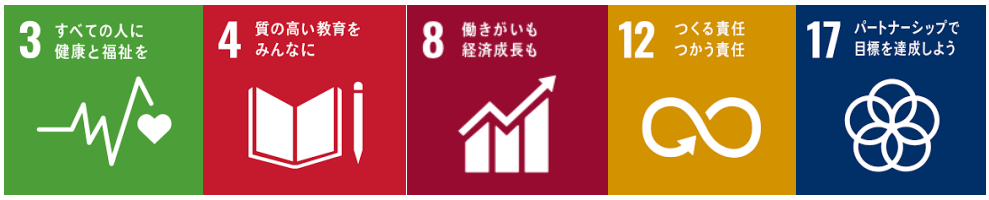
近圧協は、安全教育教材の作成にも積極的に取り組み、これまでに「CP車 安全作業手順マニュアル（2011 年）」「メンテナンスマニュアル-CP車基本的な点検・整備（2014 年）」「圧送作業の標準化（2017 年）」の3作品を製作しています。これらは全国でも先進的な取組みとして、ベテランから新人までの安全教育に活用されており、建設関係の皆様、関係行政機関、全国の圧送事業者にも無償で提供しています。現在は第4弾「土木の圧送標準化」の制作を進めています。



⑧ 社会保険加入など労働関連諸法令に対するコンプライアンスの徹底

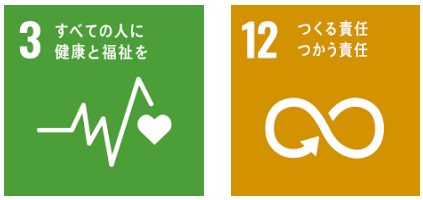
近圧協では、安全の確保には労働者の適正な処遇と働きやすい環境づくりが不可欠であるとの考えのもと、前身の大阪生コンクリート圧送協同組合時代から、社会保険加入の推進など法令遵守を徹底してきました。また、建設業界における担い手不足や技能者の高齢化が課題となる中、資格取得支援や月次安全衛生会議、各種勉強会等を通じて、人材育成と安全管理に取り組んでいます。

「圧送で働く人の生活の安定が現場の安全につながる」を基本理念に、事故防止と技術力向上を推進しています。



⑨ 組合団体保険制度

近圧協全組合員が、共同事業の安心安全のスローガンを踏まえ、団体保険（請負賠償責任保険【生コン固形化（持ち帰り事故）】に加入しており、傭車にも適用しています。



⑩ コンクリートポンプ車　実演形式の勉強会実施

近圧協では、ポンプ車メーカーと連携した技術講習会を継続的に開催しています。2023 年には極東開発工業㈱、2024 年にはプツマイスタージャパン㈱の協力のもと、実機を活用した講習会やメンテナンス教育を実施し、技術力と安全意識の向上に努めています。

また、「トラブル時の初期対応マニュアル」の整備や修理対応事業者の情報共有を行い、現場での迅速なトラブル対応体制の強化にも取り組んでいます。



⑪ 輸送管養生材の研究開発

近圧協では、閉塞事故発生時の生コンクリート飛散による被害防止を目的として、輸送管養生材の開発に取り組んでいます。破裂時 5.6ＭPa の圧力に耐える養生材の開発に成功し、現在は実車による耐久性や自然劣化の検証を行うなど、実用化に向けた取組みを進めています（特許取得済）。



⑫ 圧送技術研究会・フィールド実験・日本建築学会研究発表

近圧協では、圧送技術の向上を目的として、毎年「圧送技術研究会」を開催し、全国の圧送業者をはじめ、ゼネコン、生コン、混和剤メーカー、ポンプメーカー、行政機関、研究機関など産学官の幅広い関係者にご参加いただいています。「日本建築学会近畿支部材料施工部会ポンプ工法WG」と連携し、圧送性評価手法の開発や評価ソフトの開発を行ってまいりました。

近年は、脱炭素化に向けた先送り材や、再生骨材コンクリートの圧送性評価、省力化施工に関する実験を実施し、その成果を研究会や学会で発表しています。また、日本建築学会大会へは、20年連続で論文を投稿するなど、圧送技術の発展に継続的に貢献しています。



⑬ 「レジリエンス認証」

近圧協では、防災訓練や普通救命講習を継続実施するとともに、レジリエンス認証を取得し、自然災害への備えを強化しています。また、能登半島地震の際には石川県へ寄付を行うなど、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。



⑭ 全国コンクリート圧送事業団体連合会に加盟

近圧協は全圧連に加盟し、全国の事故・災害事例の情報共有を行っています。これらの事例を分析し、再発防止策の検討や注意喚起を行うことで、圧送作業の安全性向上に努めています。



⑮ 大阪工業大学との協同研究

近圧協では、大阪工業大学と共同で、生コンクリートの圧送作業に関する省力化についての研究を行っています。働き方改革への対応や人手不足の解消を目指し、生産性・作業効率の向上と労働者の負担軽減に取り組んでいます。



⑯ 無料職業紹介事業

近圧協では、組合員企業の人材確保を支援するため、2022 年に無料職業紹介事業の許可を取得し、積極的な広報活動を展開しています。学校や職業訓練施設、退官自衛官支援機関、若手サポートステーションなどを訪問し、コンクリート圧送業界の魅力発信と担い手確保に取り組んでいます。



⑰ その他

1. 共同受注事業

近圧協は、圧送工事業の持続的な発展と共同事業の安定運営に取り組んできました。これもひとえに、ゼネコンをはじめとする得意先各位のご理解とご協力の賜物です。

今後も組合運営の透明性と健全性の確保に努めるとともに、安全・品質の向上と業界の発展に取り組んでまいります。

2. 安定供給

近圧協は、関西最大規模となる約 700 台のコンクリートポンプ車、123 社の組合員企業、約 930 名の圧送作業員を擁し、多様な施工ニーズに対応しています。点検整備の行き届いた豊富なポンプ機種を多数取り揃え、経験豊富な作業員による高品質な施工体制を構築しています。

また、近畿 2 府 4 県に広がる組合員ネットワークと共同配車システムにより、繁忙時や天候不順、車両トラブル時にも安定した供給を実現しています。さらに、全圧連加盟事業者との連携により広域的な対応の体制を確保しています。

